

(様式第7号)

### おおさかグローバル奨学金留学報告書

2015年 5 月 21 日

|         |                                 |                  |                        |
|---------|---------------------------------|------------------|------------------------|
| 学 校 名   |                                 | 奨 学 金<br>交 付 年 度 | 2014年度                 |
| 氏 名     |                                 |                  |                        |
| 留 学 期 間 | 平成 26 年 4 月 25 日 ~ 27 年 5 月 6 日 |                  |                        |
| 留 学 先   | 国 名                             | カナダ              | 学校名<br>Douglas College |
| 専 攻     | 語学コース                           |                  |                        |

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

留学中の生活は、授業は全て昼からだったので、朝は予習をして、学校へ行き、放課後は図書室のパソコンで課題のエッセイや、リサーチに時間を費やしていました。そのあとは、夕ご飯の材料を買いにスーパーへ行き、帰宅し、夕ご飯を終えたら、予習と課題をするというのが日課でした。ホームステイには申し込まなかったため、家事をする分、前回の留学より少々大変でした。週末も課題用の時間にあてていたため、遊びにいけるような余裕のある日は、あまりありませんでした。なので、よく友人と外食したりして、お互いの近状報告をしていました。2月に International day というイベントが学校であり、ボランティアとして日本文化を紹介するブースを作りました。他にも、韓国、中国、インド、アフガニスタン、カザフスタン、インドネシア、コロンビア、タイ、ロシア、イランなどのブースもあり、インドのサリーや韓国のチマチョゴリなど、母国の伝統衣装を着ている人がたくさんいて、multiple culture の楽しさを再認識することができました。

留学の成果は、Speaking, Listening, Reading と Writing 全ての面で伸びたと思います。授業を通じて、ビジネスにおけるマナーや、商談のやり方といった、グローバルビジネスで役立つ知識や技術を身につけることができました。他にも、行動科学において組織内での自分、または他者の行動を分析・分類することで、組織行動における自身の強みと弱みを発見することができました。その教科を学んだことにより、「なぜこの人はこんなことをするのだろう？」という不快感を抱いたとしても、行動科学のタイプに分類できることで、相手の行動からその人を毛嫌いするのではなく、その人を理解しようと考えようになりました。留学を経験した多くの日本人学生は、異文化コミュニケーションを経て、自分の文化や価値観が当たり前ではないという教訓を得たと思います。Communication の授業を受講して、文化は地域や天候によって特徴があることを知りました。違う国籍の人達とコミュニケーションをする上でなんらかしらのトラブルがあった際に、そういえばこの人の母国の特徴は..と以前より深く考え、分析できるようになったので、お互いの価値観と価値観がぶつかる平行線のような口論は無くなったと思います。そして、私はおおさかグローバルに参加する際に「グローバル人材とは

具体的にどういった人達を指すのだろう？」と思いました。英語を流暢に話せるのがグローバル人材？留学を経験したらグローバル人材？将来、日本を世界に紹介できるのがグローバル人材？はたまた企業の国際化に貢献できるのがグローバル人材？と、まだ日本を離れる前に自分なりに考えてみましたが、結局答えが浮かばないままカナダへと飛び立ちました。そして、今回の留学を無事終了し、日々の生活の中で見つけた答えは「グローバル人材とは語学力だけではなく、価値観や宗教観で生じる異なる国同士のミスコミュニケーションに対するストレスを最小限に抑え、解決方法を柔軟に且つ円滑に対応できる人物」と導き出すことができました。いくら英語が流暢に話せても、プロジェクトを協力して進行する際に、お互いの意見が食い違えば、必ず口論になります。どちらかが折れなければ口論が終わらないこともあります。そのような状況ではお互いのストレスがどんどん蓄積されて、グループ内の信頼や雰囲気は徐々に悪い方向へ向かってしまいます。なので、そういった問題を解決できることはグローバルの場で重要な力だと思います。そして、英語を第二言語として話す人は、全員が全員ネイティブスピーカーのように英語を話せる訳ではありません。日本人の英語のアクセント、ベトナム人の英語のアクセント、フランス人の英語のアクセント、中国人の英語のアクセントと様々です。世界共通語である英語での会話はグローバルの場で必要不可欠となり、アジア人同士で英語を話す機会もたくさんあると思います。その時に聞きなれない英語のアクセントでコミュニケーションに支障をきたす可能性もあります。なので、英語を第一言語として扱う人達と会話ができるだけでなく、第二言語として扱う人達とコミュニケーションできる力も同様に重要だと思います。そして、英語力＝グローバル人材ではないと気づけたことは私にとってこの留学の大きな成果だと思います。

私は留学先で、ある2科目に大変興味を持ちました。どういった戦略でモノを売り、どのようなサービスを顧客に提供し、どうやって自社の商品を取引会社へプレゼンテーションし、競争手を分析し、マーケットを広げ、利益を上げていく **Marketing** と、プログラミング言語を学ぶ **Computer Science** です。私はただ知りたいという好奇心でプログラミングを受講しました。今回の留学で受講した2教科を活かせる職に就くことが現在の目標で、プログラミングをもっと深く学び、自社の製品または、顧客のニーズにあったプログラミングソフトを開発できる一員になりたいです。

これから留学する人のアドバイスはキャンパスの外側で交流を広げることです。バンクーバーには日系センターや日本とカナダのコミュニティセンターである日加センターがあり、私は日本語のボランティアスタッフとして、長期休暇中に頻繁に参加していました。そこで出会った現地の人たちはとても親切で、そこでできた友達の一部にその子の通っている大学を案内してもらったりしました。このように自分の行動次第で様々な経験ができます。留学期間が長くなれば長くなるほど、留學生活が慣れてきた頃に、日常生活となってしまった自身の留學生活がこのままずっと続いていくような感覚に陥りますが、留學は有限です。もしかしたら勉學に追われる日々で手一杯になるかもしれません。私も時間に余裕が無かったので、セメスター中の私の行動範囲は少し狭かったです。なので、これから留學を目指す皆さんにはもっともっと色々な人たちと交流できる場所を少しでも多く増やすことができれば、さらに充実のある留學生活になるのではないかと思います。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。